

## 南房総から得られた北限記録のクラカケエビス（イトウダイ科）

秋山天汰<sup>1</sup>・川瀬裕司<sup>2</sup>

## Author &amp; Article Info

<sup>1</sup> 一般社団法人にじいろはうす「フリースクール ステーション」（鴨川市）<sup>2</sup> 千葉県立中央博物館分館海の博物館（勝浦市）

kawase@chiba-muse.or.jp (corresponding author)

Received 16 April 2025

Revised 20 April 2025

Accepted 21 April 2025

Published 22 April 2025

DOI 10.34583/ichthy.54.0\_60

Tenta Akiyama and Hiroshi Kawase. 2025. The northern limit record of the Silver-spot Squirrelfish *Sargocentron caudimaculatum* (Holocentridae) from southern Boso Peninsula, Japan. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 54: 60–63.

## Abstract

A single specimen of the Silverspot Squirrelfish, *Sargocentron caudimaculatum* (Rüppell, 1838) (Holocentridae), was collected along the quay of Amatsu Fishing Port, on the southern Boso Peninsula, Chiba Prefecture, Honshu, Japan in December 2022. Until now, the northernmost record of this species in Japan was from Shima, Mie Prefecture. Therefore, the present specimen represents the northernmost known distributional record of the species in Japan.

イトウダイ科魚類は、大西洋およびインド・太平洋の熱帯域に分布し (Nelson et al., 2016), 日本から 6 属 41 種が報告されている (本村, 2025). クラカケエビス *Sargocentron caudimaculatum* (Rüppell, 1838) は、日本国内では鹿児島県以南の島しょからの記録が多く (例えば、江口・本村, 2016), 本州では和歌山県と三重県から合計 3 個体の記録があるのみである (堺・國島, 2023; 久保ほか, 2024).

本研究では、千葉県鴨川市で採集されたイトウダイ科の 1 個体がクラカケエビスと同定された。本個体は、本種の標本に基づく北限分布記録を更新するため報告する。

## 材料と方法

2022 年 12 月 24 日に千葉県鴨川市の天津漁港の岸壁で、釣り用のタモ網 (柄長 6 m, 網目 10 mm×5 mm) により、水面付近に浮上していた本個体を採集した。採集時には衰

弱しており、アクリル水槽 (45 cm × 30 cm × 30 cm) で飼育を試みたが、翌日に死亡した。このため、本個体を水道水とともにポリ容器に入れて冷凍保存した。2024 年 9 月 16 日に本個体を解凍して、各鰭を整形した後 10% ホルマリンで約 3 カ月間固定し、70% エタノール水溶液に置換した。本個体の計数と計測方法は中坊・中山 (2013) に従い、体の各部位はデジタルノギスを使用して 0.1 mm 単位で計測した。本標本は、千葉県立中央博物館分館海の博物館魚類標本 (CMNH-ZF) として登録・保管されている。

*Sargocentron caudimaculatum* (Rüppell, 1838)

## クラカケエビス

(Fig. 1)

**標本** CMNH-ZF18399, 体長 55.7 mm, 全長 68.1 mm, 千葉県鴨川市天津, 天津漁港 (35°07'23.7"N, 140°09'49.3"E), 2022 年 12 月 24 日, タモ網, 秋山天汰採集。

**記載** 背鰭鰭条数 XI, 15; 臀鰭鰭条数 IV, 9; 胸鰭鰭条数 14; 腹鰭鰭条数 I, 7; 側線有孔鱗数 40; 背鰭棘条部中央下側線上方横列鱗数 2.5.

体各部に対する体長の割合 (%): 体高 36.8; 体幅 16.3; 頭長 34.1; 吻長 7.4; 眼径 13.1; 両眼間隔 7.4; 上顎長 13.1; 前鰓蓋骨隅角部棘長 5.2; 尾柄高 9.5; 尾柄長 17.8; 背鰭前長 37.9; 臀鰭前長 73.4; 腹鰭前長 40.4; 背鰭第 1 棘条長 8.6; 背鰭第 2 棘条長 11.7; 背鰭最長棘条長 (第 4 棘) 13.6; 背鰭第 11 棘条長 (最終棘) 3.6; 臀鰭第 1 棘条長 1.1; 臀鰭第 2 棘条長 3.6; 臀鰭第 3 棘条長 21.4; 臀鰭第 4 棘条長 (最終棘) 14.7; 胸鰭長 24.4; 腹鰭長 25.5.

体各部に対する頭長の割合 (%): 吻長 21.6; 眼径 38.4; 両眼間隔 21.6; 尾柄高 27.9; 胸鰭長 71.6; 腹鰭長 74.7.

体は側扁し、吻は尖る。体高は、背鰭第 3–4 棘間基部で最大になり、体長の 36.8% と高い。体背縁は吻端から背鰭第 3–4 棘間まで上昇し、背鰭第 1 軟条基部まで緩やかに下降した後、背鰭第 15 軟条まで下降する。体腹縁は下顎

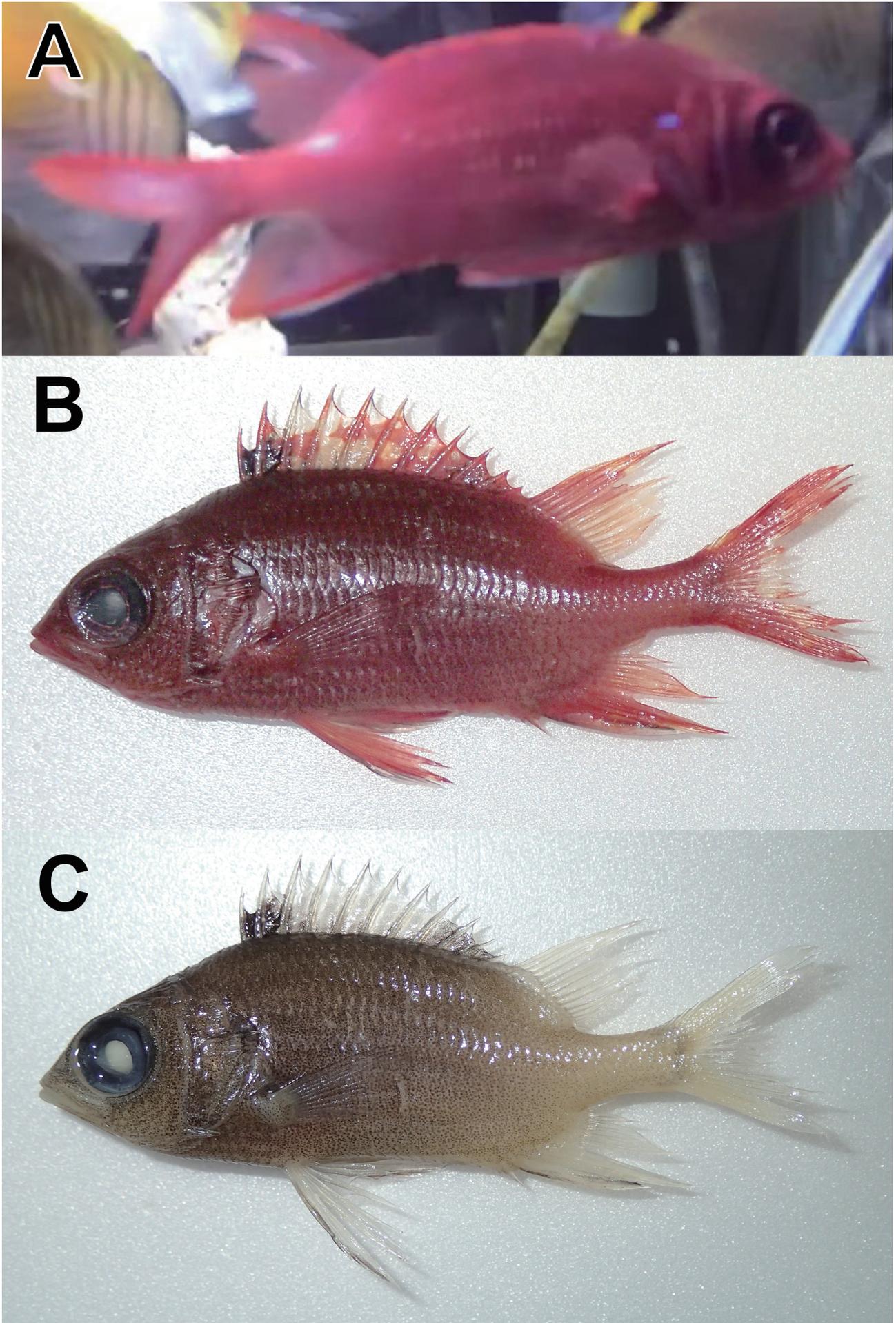


Fig. 1. *Sargocentron caudimaculatum* (CMNH-ZF18399, 55.7 mm SL) from Amatsu, southern Boso Peninsula, Japan: (A) live individual, (B) specimen thawed after freezing, and (C) specimen preserved in 70% ethanol.

の先端から前鰓蓋骨隅角部の直下付近まで下降し、臀鰭第1棘条まで体軸と平行になり、その後尾柄部にかけて上昇する。眼は大きく、円形。両鼻孔は眼の直前にある。口は端位で、上顎と下顎の先端の位置はほぼ等しい。前鰓蓋骨隅角部に強く長い1棘がある。主鰓蓋骨は、右側に2本、左側に3本ある。背鰭起部は主鰓蓋骨後端直上よりやや前方に位置し、主鰓蓋骨後端直上には背鰭第2棘基部が位置する。背鰭棘長は第11棘（最終棘）で最短となり、最終棘の基部は後ろから2番目の棘（第10棘）と第1軟条との中間付近に位置する。背鰭軟条は臀鰭起部の直上からはじまり、第1軟条のみが不分枝で残りは分枝する。背鰭棘条部の鰭膜は切れ込む。胸鰭基底は背鰭第2-4棘間の直下に位置する。腹鰭起部は背鰭第3-4棘間の直下に位置する。胸鰭後端は背鰭第8棘基部の直下付近に位置する。臀鰭起部は背鰭第1軟条の直下付近に位置する。尾鰭は深く湾入する二叉型で、先端は丸みを帯びる。鱗は櫛鱗で固い。

**色彩** 生時の色彩 (Fig. 1A) 一吻から背鰭軟条起部の直下付近までは赤色。背鰭軟条部の直下付近から尾柄部にかけては、白みを帯びたピンク色。背鰭軟条部、臀鰭、尾鰭、胸鰭、および腹鰭の鰭膜は、赤みを帯びた半透明。尾柄部の背側前方に白色の鞍上斑がある。主鰓蓋骨の最上棘周辺に薄紫色の斑点がある。前鰓蓋骨の縁辺が白く縁取られる。虹彩は黒色で、瞳孔の周りは赤色で縁取られる。

冷凍後の色彩 (Fig. 1B) 一吻から背鰭軟条起部の直下付近まで、生時は赤色であったが、約2年間冷凍保存した後に解凍した個体では黒みを帯びた赤色へと変色した。背鰭軟条部の直下付近から尾柄部にかけて、生時は白みを帯びたピンク色であったが、冷凍保存後は白みを帯びた赤色へと変色した。背鰭軟条部、臀鰭、尾鰭、胸鰭、および腹鰭の鰭膜は、生時と同様赤みを帯びた半透明で、背鰭棘条部の第1-3棘間の鰭膜には黒色斑が認められた。生時、尾柄部の背側前方に見られた白色の鞍上斑、主鰓蓋骨の最上棘周辺に見られた薄紫色の斑点は確認できなかった。

固定後の色彩 (Fig. 1C) 一固定処理から3カ月を経た標本では、生時に赤色であった箇所が茶色になり、白みを帯びたピンク色であった箇所は薄茶色に変色した。背鰭軟条部、臀鰭、尾鰭、胸鰭、および腹鰭の鰭膜は生時、赤みを帯びた半透明であったが、固定後は赤みを失い半透明に変色した。背鰭棘条部の第1-3棘間の鰭膜に見られた黒色斑は、固定後も確認された。

**分布** 紅海を含むインド・太平洋に分布する (Randall, 1998; 林, 2013)。日本国内では、千葉県鴨川市天津、三重県志摩市御座と尾鷲市九鬼町、和歌山県串本、高知県柏島、小笠原諸島の兄島と父島、南鳥島、大隅諸島の硫黄島、馬毛島、種子島、屋久島、口永良部島、口之島、奄美大島、徳之島、沖永良部島、沖繩島、伊江島、渡嘉敷島、南大東島、宮古島、伊良部島、石垣島、西表島、与那国島か

ら記録されている (Shimizu and Yamakawa, 1979; 市川ほか, 1992; 清水, 1997; 鈴木・片岡, 1997; 国安, 1999; 吉郷, 2004; Senou et al., 2006, 2007; 渡井ほか, 2009; Motomura et al., 2010; 林, 2013; 西山, 2013; 佐々木ほか, 2014; 江口・本村, 2016; Motomura and Harazaki, 2017; 木村ほか, 2017; Koeda and Akita, 2018; 中江, 2018; Nakae et al., 2018; Motomura and Uehara, 2020; 和田ほか, 2021; Jeong and Motomura, 2021; Motomura, 2023; 堺・國島, 2023; 久保ほか, 2024; 本村, 2025; 本研究)。

**備考** 本標本は、前鰓蓋骨隅角部に強く長い1棘があること、臀鰭軟条数が9であること、背鰭棘条部の最終棘（第11棘）が後ろから2番目の棘（第10棘）と第1軟条との中間付近に位置すること、背鰭棘条部中央下の側線上方横列鱗数 (TRac) が2.5であること、側線有孔鱗数が40であること、生時に尾柄部が白みを帯びることなどの特徴から、クラカケエビスと同定された。

第1著者は、本標本を採集した天津漁港で、2019年から週に1-5回程度、たも網により魚類を採集している。この漁港内の岸壁付近では、外房地域にある漁港でも熱帯性魚類の幼魚が出現しやすく、毎年6月から翌年1月にかけて多くの種が確認されている。例えば、チョウチョウオ科ではこれまでに10種が採集または目視確認されており、特にチョウチョウオ *Chaetodon auripes* Jordan and Snyder, 1901 とハタタテダイ *Heniochus acuminatus* (Linnaeus, 1758) が多く出現する。しかしながら、イトウダイ科魚類の出現は稀で、これまでに採集されたのは本研究のクラカケエビスと、2023年1月に採集されたイトウダイ属の1種の2個体のみである。また、第2著者の所属する博物館では、南房総沿岸で魚類標本を網羅的に収集しているが、これまでに港の岸壁や潮間帯でイトウダイ科の幼魚が採集された記録はない。

2017年8月に黒潮大蛇行が発生し、2025年4月現在も継続しており、1965年以降で最も長く継続している (気象庁, 2025; JAMSTEC, 2025)。黒潮大蛇行が発生すると、房総半島南部の東岸を沿うようにして北上するため、海水温が上昇しやすくなる。千葉県館山市沿岸の岩礁域における海水温計測によると、黒潮大蛇行が始まった翌年度以降の冬期に日平均海水温が15°Cを下回ることはほとんどない。さらに、黒潮大蛇行前後で年間最低となる月平均海水温を比較すると、14.8°Cから16.3°Cに上昇している (川瀬, 未発表)。黒潮大蛇行が長期間続くと、通常は房総半島沖を東へ流れる黒潮続流が北偏することがあり、三陸沖ではかつてない高水温が記録されている (Sugimoto et al., 2025)。実際、千葉県、茨城県、宮城県の沿岸からは、初記録の熱帯性魚類が多数報告されている (百瀬・尾山, 2024; 外山ほか, 2024, 2025; 櫻井ほか, 2024; 鈴木ほか, 2025)。これらの報告では、イトウダイ科ではア

ヤメエビス *Sargocentron rubrum* (Forsskål, 1775) の幼魚が宮城県石巻市 (櫻井ほか, 2024), ナミマツカサ *Myripristis kochiensis* Randall and Yamakawa, 1996 の幼魚が茨城県ひたちなか市 (外山ほか, 2024) から記録されているが, 本種は記録されていない。

## 謝 辞

本稿をまとめるにあたり, 千葉県立中央博物館分館海の博物館の奥野淳児博士, および査読者に有益な助言を頂いた。厚く御礼申し上げる。

## 引用文献

- 江口慶輔・本村浩之. 2016. 琉球列島におけるイトウダイ科魚類相. *Nature of Kagoshima*, 42: 57–112. [URL](#)
- 林 公義. 2013. イットウダイ科, pp. 579–591, 1897–1899. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 市川 聡・砂川 聡・松本 毅. 1992. 屋久島産魚類の概観, pp. 19–42. 屋久島沿岸海洋生物調査団 (編) 屋久島沿岸海洋生物学術調査報告書. 屋久島世界遺産センター, 屋久島.
- JAMSTEC. 2025. 黒潮親潮ウォッチ. [URL](#) (4 Apr. 2025)
- Jeong, B. and H. Motomura. 2021. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of five islands of Mishima in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 109 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 16: 1–116. [URL](#)
- 木村祐貴・日比野友亮・三木涼平・峯 健・小枝圭太. 2017. 緑の火山島 口永良部島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 200 pp. [URL](#)
- 気象庁. 2025. 黒潮の数か月から十年規模の変動 (流路). [URL](#) (4 Apr. 2025)
- Koeda, K. and Y. Akita. 2018. Illustrated list of additions to the ichthyofauna of Yonaguni-jima island, the westernmost island of Japan: 37 new specimen-based records from the island. *Fauna Ryukyuan*, 41: 1–9. [URL](#)
- 久保敦暉・和田昇己・古田時三・淀 太我. 2024. 45年振りに確認された三重県2例目のクラカケエビス. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan* 44: 37–42. [URL](#)
- 国安俊夫. 1999. 生態系多様性地域調査 (屋久島沿岸海域) 報告書. 環境庁自然保護局・鹿児島自然愛護協会, 鹿児島. 64 pp.
- 本村浩之. 2025. 日本産魚類全種目録. これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名. Online ver. 30. [URL](#) (1 Apr. 2025)
- Motomura, H. 2023. An annotated checklist of marine and freshwater fishes from Tanega-shima and Mage-shima islands in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 536 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 20: 1–250. [URL](#)
- Motomura, H. and S. Harazaki. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes of Yaku-shima Island in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 129 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 9: 1–183. [URL](#)
- Motomura, H., K. Kuriwa, E. Katayama, H. Senou, G. Ogihara, M. Meguro, M. Matsunuma, Y. Takata, T. Yoshida, M. Yamashita, S. Kimura, H. Endo, A. Murase, Y. Iwatsuki, Y. Sakurai, S. Harazaki, K. Hidaka, H. Izumi and K. Matsuura. 2010. Annotated checklist of marine and estuarine fishes of Yaku-shima Island, Kagoshima, southern Japan, pp. 65–247. In Motomura, H. and K. Matsuura (eds.) *Fishes of Yaku-shima Island — A World Heritage island in the Osumi Group, Kagoshima Prefecture, southern Japan*. National Museum of Nature and Science, Tokyo. [URL](#)
- Motomura, H. and K. Uehara. 2020. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Okinoerabu Island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 361 new records, *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 12: 1–125. [URL](#)

- 百瀬 樹・尾山大知. 2024. 房総半島から得られた暖水性魚類8種の記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 49: 35–48. [URL](#)
- 中坊徹次・中山耕至. 2013. 魚類概説, pp. 3–30. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 中江雅典. 2018. イットウダイ科, pp. 43–50. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編) 奄美群島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島, 横須賀市自然・人文博物館, 横須賀, 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原, 国立科学博物館, つくば. [URL](#)
- Nakae, M., H. Motomura, K. Hagiwara, H. Senou, K. Koeda, T. Yoshida, S. Tashiro, B. Jeong, H. Hata, Y. Fukui, K. Fujiwara, T. Yamakawa, M. Aizawa, G. Shinohara and K. Matsuura. 2018. An annotated checklist of fishes of Amami-oshima Island, the Ryukyu Islands, Japan. *Memoirs of the National Museum of Nature and Science*, Tokyo, 52: 205–361. [URL](#)
- Nelson, J. S., T. C. Grande and M. V. H. Wilson. 2016. *Fishes of the world*, 5th Edition. John Wiley & Sons, Inc., Hoboken. xiii + 707 pp.
- 西山 肇. 2013. イットウダイ科, pp. 22–30. 本村浩之・羽田慎一・古田和彦・松浦啓一 (編) 鹿児島県三島村 — 硫黄島と竹島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば. [URL](#)
- Randall, J. E. 1998. Revision of the Indo-Pacific squirrelfishes (Beryciformes: Holocentridae: Holocentrinae) of the genus *Sargocentron*, with description of four new species. *Indo-Pacific Fishes*, 27: 1–105.
- 堺 響暉・國島大河. 2023. 和歌山県串本町から得られた本州初記録のクラカケエビス. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 35: 16–19. [URL](#)
- 櫻井慎大・増田義男・長岡生真・時岡 駿・富樫博幸. 2024. 異常高水温下の2023年10月から2024年2月に宮城県牡鹿半島周辺海域から得られた北限更新記録を含む29種の南方系魚類の記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan* 45: 68–84. [URL](#)
- 佐々木哲朗・瀬能 宏・山田鉄也・内野啓道. 2014. 小笠原諸島兄弟島および父島の海産魚類相. *小笠原研究*, 41: 13–39. [URL](#)
- Senou, H., Y. Kobayashi and N. Kobayashi. 2007. Coastal fishes of the Miyako Group, the Ryukyu Islands, Japan. *Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science)*, 36: 47–74. [URL](#)
- Senou H., H. Kodato, T. Nomura and K. Yunokawa. 2006. Coastal fishes of the Ie-jima Island, the Ryukyu Islands, Okinawa, Japan. *Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science)*, 35: 67–92. [URL](#)
- 清水 長. 1997. イットウダイ科, pp. 159–167. 岡村 収・尼岡邦夫 (編) 日本海水魚. 山と溪谷社, 東京.
- Shimizu, T. and T. Yamakawa. 1979. Review of the squirrelfishes (subfamily Holocentrinae: order Beryciformes) of Japan, with a description of a new species. *Japanese Journal of Ichthyology*, 26: 109–147. [URL](#)
- Sugimoto, S., A. Kojima, T. Sakamoto, Y. Kawakami and H. Nakano. 2025. Influence of extreme northward meandered Kuroshio Extension during 2023–2024 on ocean-atmosphere conditions in the Sanriku offshore region, Japan. *Journal of Oceanography*, doi: 10.1007/s10872-025-00747-x. [URL](#)
- 鈴木 清・片岡照男. 1997. 三重の海産魚類. 鳥羽水族館, 鳥羽. 297 pp.
- 鈴木将太・太齋彰浩・阿部拓三. 2025. 南三陸町自然環境活用センターの収蔵標本に基づく宮城県志津川湾の魚類相と近年の動向. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan* 51: 1–24. [URL](#)
- 外山太一郎・棟方航平・山崎和哉. 2024. 茨城県から得られた北限記録の魚類14種. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan* 48: 5–13. [URL](#)
- 外山太一郎・山崎和哉・藤又賢司・丹野昌博・納谷典明・大森健策・外山怜子. 2025. 茨城県平磯海岸の魚類相: 県初記録39種を含む127種の記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan* 52: 13–45. [URL](#)
- 和田英敏・古橋龍星・山田守彦・藤井琢磨・吉田朋弘・Kunto Wibowo・荒木萌里・伊藤大介・赤池貴大・中川龍一・渋谷駿太・是枝伶旺・出羽優風・餅田 樹・本村浩之. 2021. 徳之島初記録の魚類122種. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 7: 35–52. [URL](#)
- 渡井幹雄・宮崎佑介・村瀬敦宣・瀬能 宏. 2009. 慶良間諸島渡嘉敷島渡嘉志久湾の魚類相. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), 38: 119–132. [URL](#)
- 吉郷英範. 2004. 南大東島で採集されたタイドプールと浅い潮下帯の魚類. 比和科学博物館研究報告, 43: 1–51.